

中部様式1

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

岡崎市交通政策会議

平成18年11月17日設置

フィーダー系統 平成30年6月29日 確保維持計画策定等

【岡崎市地域公共交通網形成計画】

《計画期間：平成28年度～平成32年度》

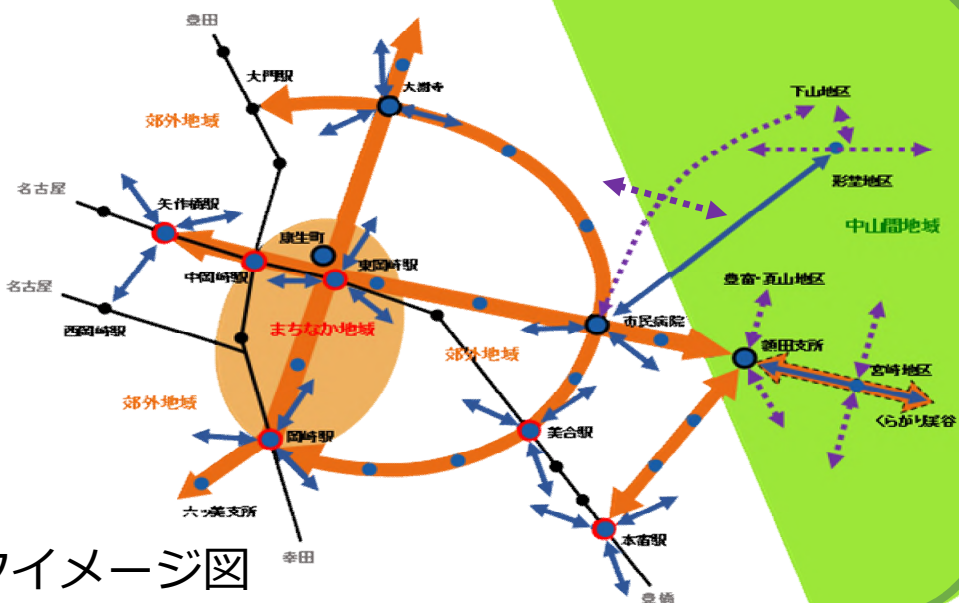
本市には、「まちなか地域」、「郊外地域」、「中山間地域」があり、地域特性に応じたまちづくりが行われている。

本市では、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの構築等、持続可能な公共交通網を確保するため、平成28年5月に**岡崎市公共交通網形成計画**を策定し、公共交通施策の目標を右記のとおり設定した。また、広域的な地域間幹線についても隣接都市との交通ネットワークの主要路線として位置付けている。

公共交通施策の目標

1. 少子高齢化の進展に対応した誰でも使いやすい公共交通整備
2. 地域のニーズにあった利便性の高い公共交通の整備
3. まちづくり施策との連携によるまちの魅力を高める公共交通の整備
4. 地域のコミュニティの活性化や交流を促進する公共交通の整備
5. 市民の意識変容による公共交通利用の促進

凡例	
	鉄道
	基幹路線
	支線交通路線
	生活交通路線 (フィーダー補助対象路線)
	鉄道駅型交通結節点
	バス停型交通結節点



○公共交通ネットワークイメージ図

【主な取組】

1. 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善（補助対象事業）

- 額田地域の各路線について、沿線の住民を含めて利用状況や他地域の活動等の情報を提供。
- バス利用者の利便性を高めるにあたり、令和元年12月に本市路線のうちコミュニティ交通路線をオープンデータ化するため、GTFSデータを作成し、公開。
- フリー乗降区間を設定し、小学生の通学利用や高齢者の移動距離削減等の需要に応え、利便性を向上。
- 障がい者割引制度を導入し、誰もが利用しやすい運賃体系等を整備。



公共交通マップ

2. 利用促進の実施

- 公共交通マップを作製し、市内バス路線の情報提供を実施。
- 市内イベントにおいて「公共交通に親しむ日」を実施し、額田地域の魅力とともに実際に運行している車両の展示、近隣都市のバスマップの配布、バスの運転手体験、バスの乗り方教室等を開催。
- 「公共交通に親しむ日」の実施に合わせて、市内バス路線等を「小学生運賃無料の日」を設定。
- バス事業者と協力し、市内小中学校において公共交通・交通安全教室やバスの乗り方教室を開催。
- 下山地域バス（豊田市）とささゆりバスの接続など、バス路線の新たな活用に向けて近隣市町と連携。



近隣市町のバスマップ配布



市内中学校で実施した乗り方教室

3. 地域内交通の整備 (非補助事業)

地域住民の主体的な取組に対して、地域の代表者等と連携・協力しながら次の取組を行った。

- ・アンケート調査による地域ニーズの把握及び結果分析
- ・地域協議会の設立及び検討

六ツ美地区：地域の移動手段の確保に向け、地域住民及び事業者等とエリアバスの導入について協議及び検討をしている。(6回開催)

矢作地区：地域の移動手段の確保に向け、地域住民に他地域の事例の紹介などにより、需要に合う交通手段となるように協議及び検討をしている。(3回開催)

- ・地域ニーズにあった多様な交通モードの検討 等々

4. 地域公共交通会議の開催 (非補助事業)

- ・岡崎市交通政策会議を開催。(3回開催)
- ・利用促進に向けた改善に向けて、額田地域生活交通協議会を開催し、利用状況や多様な運行形態等の情報提供を行い、地域住民の要望を把握。(4回開催)

5. まちバスの運行改善 (非補助事業)

- ・まちバスの周知やPRのため、新規デザインのラッピングによる利用促進を図った。
- ・一般路線化(運行主体を市から事業者へ移譲)について検討中である。

【その他の取組】

1. 愛知環状鉄道のICカード導入(平成31年3月)
2. 愛知環状鉄道の高架橋耐震対策・修繕



内藤ルネコラッピング(31.4～) ICカード対応自動改札機

【岡崎市地域公共交通網形成計画における目標及びその評価】

目標達成に向けた取組による目標値を設定しているが、その目標値は計画期間の終了時である令和2年度のものである。計画期間中であるため、把握できる直近の現況値やその評価等を記載。

成果目標	目標値（設定根拠）	直近の現況値（期間・時点）	達成状況
バス利用者数の増加	6 6 6 万人/年以上(平成24年度乗客数以上)	6 6 8 万人/年（平成30年度）	達成
駅のバリアフリー対応	未整備 2 箇所（計画策定時 4 箇所）	未整備 4 箇所（令和元年12月時点）	未達成
ノンステップバス導入率	5 0 %（計画策定時38%）	6 3 %（令和元年12月時点）	達成
公共交通 利用者数の増加	3,000万人/年以上 【計画策定時(平成24年度)】 2,993万人/年以上 鉄道乗客数：2,327万人 バス乗客数： 666万人	3,259万人/年 鉄道乗客数：2,591万人 バス乗客数： 668万人	達成
地域内交通検討の 地域組織の設立	6 ヶ所【計画策定時】 4 箇所(平成26年度)	7 ヶ所（令和元年12月時点）	達成
乗り方教室の実施回数	5 回/年【計画策定時】 1 回(平成26年度)	3回/年（令和元年12月時点）	未達成

○目標達成状況に対する考察と今後の方針

(1) 目標達成項目

- ・地域公共交通網形成計画に基づき、市民や交通事業者と連携協力し、バス路線の確保・維持、地域内交通の整備に努めたほか、利用促進やモビリティマネジメントを実施することができた。

→移動手段に不便を感じている地域の声もあるため、地域住民とともに地域ニーズにあった多様な交通モードの検討を進める。

(2) 目標未達成項目

- ・引き続き事業者等との協議・調整や要望を行っていく。

【地域公共交通確保維持改善計画における目標及びその評価】

○額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善（補助対象事業）

【目標値】

①利用者数：平成29年度実績値の現状維持の数値

②利用率：人口が減少傾向にある地域であるため、平成29年度実績値から上昇するように目標値を設定

路線名	①利用者数			②利用率		
	令和元年度 目標(人) H30.10～ R01.9	令和元年度 実績(人) H30.10～ R01.9	評価	令和元年度 目標(%) H30.10～ R01.9	令和元年度 実績(%) H30.10～ R01.9	評価
A:額田支所市民病院線(名鉄バス)	7,075	5,750	未達成	0.23%	0.14%	未達成
B:下山地区線(ささゆりバス)	4,905	3,378	未達成	3.24%	1.64%	未達成
C:形埜地区線(乙川バス)	777	779	達成	0.30%	0.42%	達成
D:宮崎地区線(のってこバス)	410	368	未達成	0.29%	0.54%	達成
E:豊富・夏山地区線(ほたるバス)	442	434	未達成	0.09%	0.14%	達成

※「②利用率」＝「③日利用者数」／「④沿線人口」×100

※日利用者数及び沿線人口（「③日利用者数」＝「①年間利用者数」／「年間運行日数」）

路線名	③日利用者数	④沿線人口
	令和元年度 実績(人) H30.10～R01.9	令和元年10月 (人)
A:額田支所市民病院線(名鉄バス)	15.8	11,167
B:下山地区線(ささゆりバス)	14.0	856
C:形埜地区線(乙川バス)	5.5	1,317
D:宮崎地区線(のってこバス)	4.0	740
E:豊富・夏山地区線(ほたるバス)	4.3	3,051



○目標達成状況に対する考察と今後の方針

(1) 目標未達成路線（額田支所市民病院線、下山地区線、宮崎地区線、豊富・夏山地区線）	
考察	・通学利用者の減少や定期的に利用していた高齢者が利用できなくなったため減少。 ・額田地域以外への周知不足により利用者数が減少。
方針	・老人クラブの活動で市街地に行く際にバスを活用するよう呼びかけるほか、地域住民とともに、高齢者やこれから高齢を迎える年代に向けた利用促進を図る。 ・岡崎げんき館前バス停付近に駐輪場を整備しており、高校生の家庭に対してバス利用を促していく。 ・額田地域以外の沿線町内会への二ーズ把握を行う。
(2) 目標達成路線（形埜地区線）	
考察	・現在利用している利用者が引き続き利用している。 ・地域への利用状況の回覧等の情報提供により、バスの周知が利用者へ図られた。
方針	・引き続き地域とともに利用促進を図るとともに、最適な運行形態を検討していく。 ・高齢者定期券購入費の1割を地域が助成する取組を継続して行う。
(3) 共通	
考察	・額田地域の沿線人口が減少傾向にある。 ・車を運転する高齢者が多い。（地域協議会より）
方針	・路線見直しをする地区の運行についてしっかりと確認し、効率・効果的な運行となっているか検討を図る。 ・高齢者やこれから高齢となる年代に向けて、会合やイベント等の日程に合わせた時刻情報等を提供するなど、公共交通利用への転換促進を呼びかけていく。 ・地域の小中学校で出前講座を実施し、地域の将来を担う中学生自らが公共交通を通して、地域の将来について考える機会を提供する。

課題

対応方針

1 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善

- ・額田地域以外の住民のほか、高齢者や高校生の利用を増やす必要がある。
- ・車を運転する高齢者が多い。



- ・額田地域以外の沿線住民に利用状況の周知を図り、利用促進策の検討等を進める。(随時)
- ・地域住民とともに、高校生家庭や高齢者等へ公共交通の利用促進を図る。(随時)
- ・事業者等と連携し、路線再編等に向けた検討を行う。
- ・コミュニティ交通路線のGTFS化の周知を図る。(R1.12～)

2 利用促進策の実施

- ・効果的な利用促進策は継続して実行し、新たな取組も行っていく必要がある。



- ・小中学生世代対象の乗り方教室や、高齢者向け出前講座等を実施し、公共交通の利用意識の向上を図る。(随時)
- ・鉄道からバスへの乗換利便性を向上させるため、鉄道駅の整備を進める。(～R3.3)

3 地域内交通の整備

- ・交通不便地域においては、高齢者等の移動手段の確保が課題となっている。



- ・地域検討組織の設立を支援し、地域ニーズにあった利便性の高い多様な移動手段を検討する。(随時)

対応方針の具体的実現に向けて

【中山間地域・交通不便地域】

- ・地域住民とともに高齢化を迎える年代や高校生の通学利用者に対する利用促進を図るようメッセージを発していく。
- ・地域住民の主体的な取組に対して、地域住民や事業者等と連携して地域ニーズにあった利便性の高い移動手段の検討をおこない、高齢者等の移動手段の確保を目指す。

【市内共通】

- ・高齢者や免許返納者に対する施策等、本市の他の施策と連携し、関係部署と研究を進めていく。
- ・岡崎市地域公共交通網形成計画の現状把握や評価検証し、次期計画へ向けて見直しを行う。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

岡崎市交通政策会議

平成18年11月17日設置

フィーダー系統 平成30年6月29日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
利用者数が伸び悩む中山間部において効率的で効果的な路線再編と利用促進の推進を期待するとともに、近隣自治体との連携による広域的な公共交通ネットワークを構築することを期待する。	・ 非効率的な路線の運行見直しを図った。 ・ 利用状況の地域への回覧のほか、多様な運行形態等の情報提供を行い、利用促進に向け改善に努めた。 ・ GTFSデータを作成し、中山間部を運行するコミュニティバス路線の利便性の向上を図った。 ・ 公共交通マップの作成や市内イベントにおいて、近隣市町のバスマップ紹介等、利用促進策を実施した。 ・ 広域的な路線については近隣市町と情報交換を密に行い、新たな活用に向けて連携を図った。	・ 見直しを図った路線について効率・効果的となっているか検討を行う。 ・ 検索サイトへのデータ提供を継続し、利用しやすい環境を整える。 ・ 広域的な路線については近隣市町に加え、交通事業者と情報交換を密に行い、新たな活用に向けてより一層の連携の強化を図っていく。

①地域検討組織との連携

・地域検討組織の設立

新たな地域内交通の要望があがった地域で、行政の支援のもと地域協議会が設立。また、地域協議会と協議連携により高齢者の足の確保等の課題や住民の移動ニーズを把握。多様な運行方法等を他市事例を交えて情報提供し、地域ニーズにあった効果的な移動手段を地域とともに検討を行う。



地域検討組織の設立

②公共交通利用促進

・公共交通に親しむ日の実施

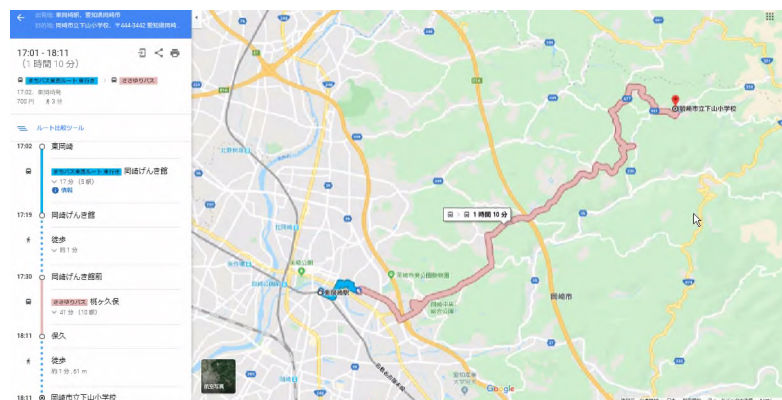
令和元年11月2日（土）、3日（日）の2日間、行政、交通事業者、地域協議会及び**地元的大学生等と連携**して「公共交通に親しむ日」事業を開催し、次世代を担う子どもたちや高齢者を始めとした市民等が公共交通に親しみ、公共交通の重要性を知ってもらう啓発イベントを実施。また、**近隣市町との連携による利用促進のため、近隣市町のバスマップを紹介。**



公共交通に親しむ日
(地元大学生との連携)

・GTFS化対応

コミュニティ交通路線のGTFSデータを作成し、Googleマップ等への掲載を行い、利便性を向上。



Googleマップへの掲載



近隣市町の
バスマップの配布